



真空採血管を用いた採血の適正な手技について

感染制御部

TITLE

真空採血管問題とは

本年10月末のNHKのニュースで、真空採血管の内部が細菌汚染されており、不適切な手技で採血を行えば、汚染された血液の逆流が起こるという報道があり、真空採血管問題は大きな話題となった。当初、真空採血管をホルダーにさしたまま駆血帯をはずさなければ逆流は起こりえないから問題ないと思われ、手順の確認だけ（採血管抜去後に駆血帯をはずす）を行うことで、診療に支障はないと考えていたが、11月17日、「真空採血管を挿入する前に駆血帯を外すべし」という厚生労働省の通達があり、現場は大混乱となった。

この通達に従って、駆血帯を外した状態で複数の採血管での採血を完了することは多くの患者様で不可能であり、当院に限らず、多くの医療機関で困惑の声が上がった。

阪大病院の対応

そこで、厚生労働省の指摘する問題点を整理すると以下ようになる。

- ①採血管の内部は細菌で汚染されている可能性があり（国内では真空採血管に滅菌の義務はなく、流通している製品の約80%が滅菌されていない）また採血管の内部には抗凝固剤などが存在するために、血液の逆流は起こしてはならない。
- ②真空採血管を装着したまま駆血帯をはずす、あるいは圧力の変化（採血管に圧力をかける、室温に戻さないで使用するなど）が起こると、採血管内の血液が逆流する。
- ③採血管内の針に試験管内の血液が触れると細菌汚染や薬剤の混入した血液が逆流する原因となる。
- ④ホルダーに接続する針周囲のゴム部の不良により、血液が漏れ出し、採血部を汚染する。

といった問題点があげられた。そこで、阪大病院では、検査部を中心にリスクマネジメント部、感染制御部が協議し、①と②は室温に戻した真空採血管を用い、採血管を抜去後に駆血帯を外すことで解決できる、③は採血時に採血管を立てるような角度で採血することで解決できる、また、ホルダーをディスポにしていることから④は解決できる、として、厚生労働省に照会し、了解を得た。

検査部を中心として出した本院の真空採血管採血のマニュアルを以下に記載する。

真空採血管の取り扱いについて

- 1, ホルダーと真空採血管により採血する場合、ホルダーは使い捨てにすること。

- 2, 患者の腕、穿刺部位及び採血管が採血中常に下向きで、真空採血管内の血液が採血針に接触しない角度を維持して採血すること。
- 3, 採血手順
 - (1) 駆血帯をする。
 - (2) 採血針付ホルダーを血管に刺入する。
 - (3) 真空採血管をホルダーに刺し採血する。
 - (4) 最後の真空採血管をホルダーから確実に抜き取る。
 - (5) 駆血帯をはずす。
 - (6) 採血針付ホルダーを抜く。
- 4, 上記の方法で採血不可能な場合は、シリンジや翼状針を用いて採血する。

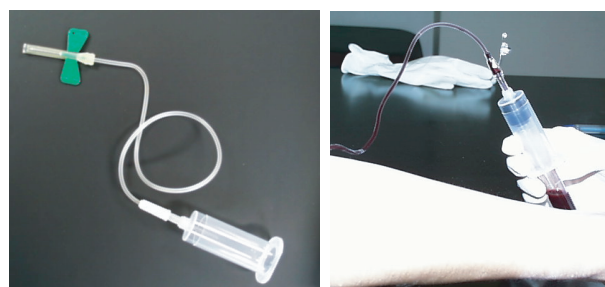
ここで、問題になるのは、9cc用など容量の大きな採血管で採血を行う場合、採血管をできるだけ立てた状態で採血を行わなければ、内部の針に採血した血液が接触する点である。採血時はできるだけ、腕枕などで工夫して被採血者の腕を立てた状態で採血を行うようにしなければならない（図1）。

また、病棟採血の場合、ベッド上に座位をとれる患者様は同様の注意を守って真空採血管による採血が可能であるが、仰臥位の状態では、腕に角度をつけることが難しく、シリンジ採血または翼状針を用いた採血（図2）を行うことになる。この場合は、真空採血管の位置を上下に動かすことなく、一定の位置で保持しなければならない。また、シリンジ採血では、針刺し事故の起こる可能性が高くなるため、十分な注意が必要である。



図1. 被採血者の腕と採血管を常に下向きにし、採血した血液が内針に触れないように注意する

図2. 翼状針を用いた真空採血管採血



○●12月1日は世界エイズデー○●○●○●○●○●○●○●○●○

2003年世界エイズ・キャンペーンテーマは『「エイズ」知ろう、話そう、予防しよう』です。

《世界エイズデー》

WHO(世界保健機構)は、1988年に世界的レベルでの蔓延防止と患者・家族に対する差別・偏見を払拭することを目的とし、12月1日を“World AIDS Day(世界エイズデー)”と定めエイズに関する啓発活動などの実施を提案しました。

《レッドリボン》

“レッドリボン”はあなたがエイズに関して偏見をもっていない、エイズとともに生きる人々を差別しないというメッセージです。“レッドリボン”はHIVに苦しむ人々への理解と支援の象徴です。

《キャンペーン》

阪大病院は「エイズ治療拠点病院」になっています。エイズ小委員会委員長の嶋 良仁先生と研修医、リンクナース、感染制御部スタッフがキャンペーン活動に参加し事務職員の方にもパンフレットを渡しエイズに対するキャンペーン活動に賛同していただきました。

地域でもエイズキャンペーン活動が積極的に行われており、阪大病院でも看護部主催、エイズ小委員会、感染制御部協賛で12月1日から5日まで「エイズキャンペーン」を実施しました。

1階のエントランスホールではエイズを正しく理解してもらうため、啓発活動用のパネルの掲示とパンフレットの配布を行いました。来院された患者様にはレ

ッドリボンを渡し、エイズキャンペーン用のキルトに貼り付けていただきました。



キャンペーン参加者



事務部訪問



展示物（病院正面玄関にて）